

国際交流員の  
活動日誌

vol.54



## 「スクールバス」 School Buses

9月から米国北部では美しい赤やオレンジの紅葉が見えるようになります。夏休みが明け、黄色のスクールバスが朝と午後の道に戻ります。交通渋滞が大変ですが、子どもたちを守るために皆さんは協力します。

日本でもスクールバスは使われていますが、米国のバスとは全然違います。車体が黄色に決められているほか、法律によって車両の安全性も操作性も最高精度を誇ります。児童の乗降時にバスの灯りが光り、車体から標識が飛び出し、法律

により交通の流れが止まります。大きくて安全なシートが設けられ、万が一事故が起きた場合でも、避難できる非常口は最多で8カ所あります。米国のスクールバスは非常に安全で素晴らしいです。

僕はスクールバスが好きですが、スクールバス通学は1年間しかできません。私立の小学校に入學してから、毎朝弟と妹とミニバンに乗り、眠そうな父親の運転でどうにか学校に着きました。大人になってバス会社で受けた研修で、スクールバスの素晴らしさを知り感動しました。長さは約100人の児童の命を守るので、責任が重かったです。バス業界では「スクールバスは最も大切な荷物を運ぶ」とよくいわれ、米国ではその宝物を最も安全な自動車に乗せます。

地域の魅力  
ふる里再発見

## 企画展「富田洋々亭と狂歌」

～洋々亭の人生、そして狂歌とは～

企画展

富田洋々亭と狂歌

9/4(土)から開催

保原歴史文化資料館

狂歌は「俳諧歌」とも呼ばれ、社会風刺や皮肉、滑稽を盛り込んだ和歌（短歌）の一種です。「富田洋々亭」は旧伏黒村生まれの漢・儒学者であり、狂歌の師匠としても活躍した人です。

洋々亭は天明元（1781）年に伏黒村に生まれ、通称七五郎と呼ばれました。青年期には、儒・漢学者である高子（上保原地域）の熊阪台州や盤谷にその才能を認められ、私塾・白雲館に学びました。この時、台州が亡くなる直前までの病状を『台州先生丘禱記』（展示予定）に克明に記録しました。

最初は儒学や漢学を学んでいた七五郎でしたが、次第に狂歌にも興味を持ち始めます。江戸の狂歌師歌垣真顔に教えを乞い、「洋々亭竹広」と号しました。

伏黒村では、私塾や寺子屋を開き、門人300人に漢学を教え、その傍ら、漢

詩・和歌・俳句・狂歌を好み、数多くの秀作を残しました。

安政3（1856）年11月に門人76人が相談し、師が使用していた古い筆を集め、光台寺近くの観音堂のそばに埋め、「筆塚」を建碑しました。その後、洋々亭は万延元（1860）年に享年80歳で亡くなりました。

狂歌は、集まった人同士で歌を味わい、時に笑いながら詠むものです。頭脳明晰であっただけでなく、ユーモアもあふれた洋々亭の塾は、にぎやかであったことでしょう。企画展では、その様子を展示していきます。



「齡寿賀筵」

（伊達市保原歴史文化資料館蔵）  
江戸後期、歌を詠み合う会の様子